

昭和 14 年（1939 年）3 月 28 日付東亜日報
第二の河允明事件拡大

「(前略) 26 日東署の金、関、石部刑事などが、千家兄弟が脱出し潜伏しているという仁川の某旅館を襲撃し、無事逮捕し、嚴重取り調べた結果、次のような罪状が續々判明し取り調べ警官を驚愕させている。すなわち千順童は今から 4 年前、彼の従弟である千億萬の他、遠縁の親戚兄弟たちを京郷各地に送り、貧しさに泣く、或いは虚栄に憧れる田舎の若い女性の父兄を訪ね、豪衣豪食の生活で勉強までさせ、後日適齢期に達したならソウル近辺に嫁に行かせてやるとか、或いはよい所に就職させるなど甘言を用いて、それらしく装うと同時に、養女にするという白紙委任状と戸籍抄本、印鑑証明などを持ってやって来ては、女給または酌婦などに売却し、まだ年若い少女は下女にして虐待し、大き

五十餘處女言誘引

北支滿洲州大部隊言賣喫

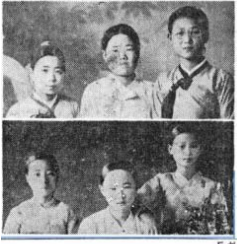
收養女言白口고 白紙委任状을 받아서 犯罪敢行

第一 河允明事件擴大

團長に千家兄弟

西京の町人 誘拐賣場

救出出居婦女



自作農の全
純小作

くなれば売春婦として人肉市場に回している。一団の頭目千順童は前記のように彼の親戚兄弟以外に多数の部下を誘拐便衣隊のように京郷各地に派遣しており、千順童が既に逮捕されたことも知らず、若い女性誘拐に精を出している団長が少なくとも 10 名に達するとのことから、東署刑事隊は千順童の自白を取り京郷各地に散らばった誘拐便衣隊の大々的掃討戦を展開しつかまえるという。」



1939 年 3 月 29 日付東亜日報社説

残忍非道のあの白白教徒の罪状がまだ法の裁断を受前に各種の類似宗教事件が續発するかと思えば、一方では若い女性をだまして売りはらう事件が後を絶たない。昨日東大門署にて摘発したいわゆる河允明事件と西大門署にて検挙中の裴長彦事件などはその最も顕著な事例である。これらはその所業規模がとて大きく、内容が非常に悪質なものであるが、その他の群小事例はひとつひとつ指摘するのも難しいほど潜行しており、実際に我々社会の文化水準を疑わしめており、あえてこのようなことを問題とすること自体、既に自身の呵責である。

それならどうしてこのような非人道的、非合法の人間悪、社会悪が演出されているのであろうか？これは何よりも最初はその当事者たちの罪過をあげねばならない。まず黄金の威力の前に手段を選ばず詐欺を敢行する人肉商たちの罪悪は唾棄し膺懲（こらしめる）してもむしろた

りないほどである。従ってここで対策を述べるとすれば、その誘拐魔たちをして改悛させ、退治して再発を防止することが第一である。しかし、これは絶対に根本的な対策にはなり得ない。その理由は一人の誘拐魔と一団の誘拐団を抑圧したとしても、その類似分子が発生するという社会的温床が出来ており、その罠に落ちざるを得ない経済条件があれば、いやこの地上に無知と悲慘が存在する間は、これと類似した性質の事件が恒常的に継続するであろうし、いくらでも場所と人を代えて現れるかも知れない。(中略)

純真な農村の若い女性ひとりや、あるいは虚栄に憧れる都市の若い女性ひとりやを脱線させることが、それほど大きな問題でないというなら、これこそ大きな問題である。これを単に正当ではない個人間のひとつの契約であるだけで考えるべきでないことは勿論であり、性道徳を破壊し、社会秩序を侵食する害毒はその影響が何よりも大きく決して小さいものではない。もちろんこれまでこのような事件が多く摘発出来ており、また犠牲となった少女たちの苦勞が少なくなかったことは記憶しているが、これからももっとこの方面の清掃が必要であるということもまた無理からぬことである。